

開所30周年記念講演会が開催されました



講師の小野正文氏



酒呑場遺跡の土器などを展示しました

平成25年2月3日、山梨県埋蔵文化財センター開所30周年記念講演会が、峡北収蔵庫 遺跡まなび館で開催されました。

講師には当センター元所長で、甲州市教育委員会生涯学習課文化財指導監の小野正文氏をお迎えし、峡北収蔵庫 遺跡まなび館の所在する、八ヶ岳南麓の縄文文化について講演していただきました。

当日は20名の参加者がありましたが、熱心に耳を傾け質問をしていました。また、別室では峡北収蔵庫 遺跡まなび館に収蔵されている酒呑場遺跡から出土した土器や石器、写真パネル等を展示し、参加者の皆さんに見学していただきました。

埋蔵文化財センターからのお知らせ

●山梨の遺跡展 2013 開催中!!

開催日・場所 平成25年3月9日(土)～4月7日(日)山梨県立考古博物館 企画展示室

開館時間 午前9時(土)～午後5時(日)・3/11、3/18、3/21、3/25、4/1は、休館
(入場は午後4時30分まで)

●第42回(平成25年度)信玄公祭り 甲州寺子屋

開催日 平成25年4月7日(日)

場所 恩賜林記念館(舞鶴城(甲府城)公園内)

【第1部】

時間：午前10時30分から正午まで

講師：信藤祐仁氏(甲府市教育委員会)

演題：武田氏館と城下町 - その魅力とは -

内容：甲府市は中世と近世二つの城下町が存在する全国的にも珍しい地域です。今回は甲府駅北口に広がる中世武田城下町の痕跡を、最新の発掘調査事例を交えながらその魅力に迫ります。街歩きスポットもご紹介いたします。

山梨県埋蔵文化財センター

埋文やまなし 第44号

発行日 2013年3月18日

編集・発行
山梨県埋蔵文化財センター
〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923
Tel 055-266-3016
印刷 (株) 峽南堂印刷所

山梨県埋蔵文化財センター

ARCHAEOLOGICAL CENTER
OF
YAMANASHI PREFECTURE

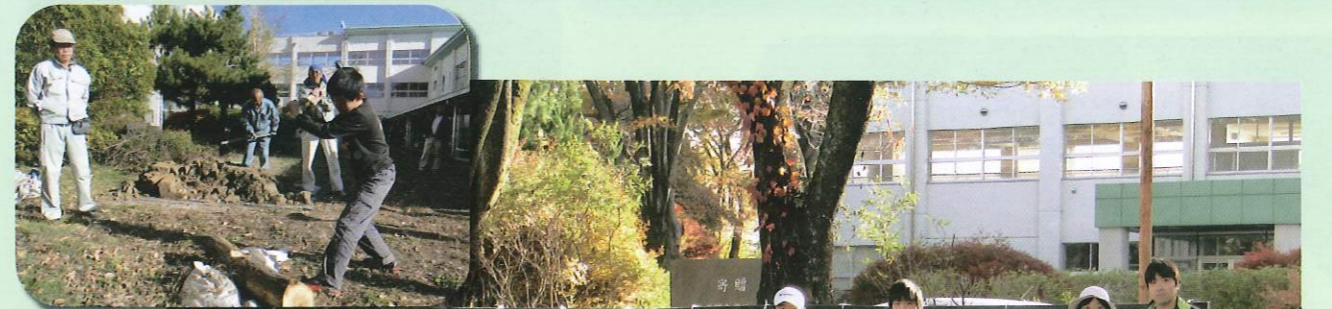
埋文やまなし

<http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/> 2013.3.18

第44号

開所30周年記念事業特集

「体験してみよう!! 古代の生活スタイル」 を開催しました



山梨県埋蔵文化財センターは開所30周年を迎えました

平成24年、山梨県埋蔵文化財センターは、開所して30周年となります。その記念事業として、小学生から中学生を対象とした体験学習会「体験してみよう!! 古代の生活スタイル」を4回開催しました。第1回は山梨市上コブケ遺跡での発掘体験、第2～4回は、北杜市にある峡北収蔵庫 遺跡まなび館(旧峡北高等学校)で、考古資料を活用した体験学習会を行いました。

当センターでは、今後も考古資料の公開活用を通じた様々な事業を開催し、県民の皆様はじめ多くの方々に、郷土の歴史を学んでいただける機会を設けていきたいと考えております。

第1回 発掘体験 平安時代の竪穴住居跡を発掘

平成24年7月14日午後、山梨市で発掘調査が行われている上コブケ遺跡で発掘体験と、土器の拓本作成を行いました。

上コブケ遺跡では、調査担当者から遺跡の概要や発掘の方法などを聞いたあと、平安時代の竪穴住居跡などを発掘しました。竪穴住居跡を掘っていくと、当時の人々が使っていた土器の破片が出てきました。なかには、土器の形がわかるような大きな破片もあり、参加した皆さんは、夏の暑さも忘れ熱心に発掘していました。

発掘体験の後は、縄文土器の破片を用いた拓本作成を行い、縄文土器に施された様々な文様を知ることができました。参加者は22名でした。



住居跡を発掘



拓本の作成

第2回 土器づくり・石包丁づくり



石包丁の作成

すりで擦っていき、形を整え完成させました。完成した石包丁は、峡北収蔵庫 遺跡まなび館で栽培している稲の穂摘み体験に使います。

午後の土器づくりでは、実物の縄文土器（食料の煮炊きに用いたもの）を見本としました。最初に縄文時代や縄文土器についての学習をした後、粘土をひも状にして積み上げ土器のかたちを作り、最後に文様をつけて今回は終了です。できあがった土器は、次回の焼成までしっかりと乾燥させておきます。参加者は、21名でした。



親子で縄文土器の作成



石包丁の作り方を学びます

第2回から北杜市にある峡北収蔵庫 遺跡まなび館での開催となり、平成24年8月5日に、土器づくりと石包丁づくりを行いました。

午前、土器づくりに使う粘土に砂をまぜてこねる作業を行い、石包丁づくりを行いました。はじめに石包丁や石包丁が使われた弥生時代の学習をした後、滑石という小中学生でも加工しやすい石を紙や



縄文土器の焼成



石包丁で穂摘み体験

第3回 土器焼き・火起こし 石包丁で稲の穂摘み

第3回は平成24年9月30日午前開催され、土器焼き・火起こし・石包丁での稲の穂摘み体験を行いました。

はじめに、前回作成し乾燥させておいた土器の焼成を行いました。焼成には時間がかかるため、その間に舞いぎりやもみぎりによる火起こし体験を行いました。火起こし体験を終えた頃、土器も焼きあがりました。十分乾燥ができたためか、どの土器も割れずに、焼成できました。

最後に、前回作成した石包丁による穂摘み体験を行いました。稲穂の摘み方を職員から説明を受けてから、穂摘みを始めましたが、皆さん集中して作業を行い、自ら摘んだ稲穂を記念に持ち帰る参加者もいました。参加者は18名でした。



第4回 収穫祭



第4回は平成24年11月4日に開催されました。午前は、前回穂摘みした稲の脱穀、粉すり体験を行いました。粉すりには、弥生時代の縦杵の複製品を用いました。次に、縄文時代の打製石斧の複製品を用いた芋掘り体験を行いました。昼食には、前回焼成した土器で、先ほど脱穀、粉すりした米を煮たり、収穫した芋を焼いたりして食べてみました。

午後は、縄文時代の磨製石斧の複製品による木の伐採体験や、石皿と磨石の複製品によるクルミ割り体験を行いました。いずれも、古代の人々の食生活に関わる体験となり、収穫祭の名にふさわしい学習会となりました。参加者は18名でした。

最後に、4回の体験学習会すべてに出席できた参加者に当センター所長より修了証が授与され、終了しました。



打製石斧で芋掘り体験



手作りの土器で米を煮ました